様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２２年５月２６日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18320025
研究課題名（和文）啓蒙と東アジア：相互性のプリズムを通じた 18 世紀学の構築

研究課題名（英文）　Enlightenment and East Asia: Formation of the Learning of 18th century through a prism of a mutual relation between East Asia and Europe

研究代表者
高橋　博巳（TAKAHASHI　HIROMI）
金城学院大学・文学部・教授
研究者番号：70109833

研究成果の概要（和文）:「啓蒙と東アジア」というテーマで予想される答えは、ヨーロッパの啓蒙がアジアに及ぶという図式であろうが､アジアの 18 世紀にもヨーロッパ型ではない｢啓蒙｣の実質が認められ、その「文芸共和国」の実態を明らかにし、東西比較の土台を築いた。同時にヨーロッパの啓蒙理解をさらに深化させるべく「百科全書」のテキスト研究に取り組んで、順次成果を公開しつつ、なお継続している。

研究成果の概要（英文）: In the mid 18th century, the Yi Dynasty dispatched a Korean Embassy to Japan. They were selected to form friendships with Japanese literati. Then they informed their friends of Japanese literati activity upon their return to Korea. In the sequel Hong Dae-jong traveled to China to look for like-minded intellectuals. Luckily he met the splendid literati in Beijing. Then the Practical School thinkers integrated two streams, Japanese and Chinese, and formed the Republic of Letters in Seoul.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	4,200,000	0	4,200,000
2007 年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2008 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2009 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
総　計	14,800,000	3,180,000	17,980,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・思想史
キーワード：比較思想史　18 世紀　啓蒙

１．研究開始当初の背景

遡れば平成 16 年に名古屋大学総長裁量経費による「東アジア 18 世紀学の拠点形成」研究会で芳賀徹氏の「文明としての徳川日本」というテーマでの研究会を始発として、平成 18 年７月（於名古屋大学)、フランソワ・ラショー氏（エコール・プラティック・オート・ゼチュード助教授）の研究会を実質的な出発点として、９月、慶応大学で百科全書のリヴォルノ版の調査と同時に当時の修辞学教科書との比較検討を行い、11 月、名古屋工業大学で、伊東貴之武蔵大学教授を招き清朝

思想史の研究会を持ち、東西比較の視点を探った。
平成 19 年１月、名古屋大学で孟華北京大学教授の「ヴォルテールと孔子」・渡辺浩東大教授（研究分担者）の「聖人は幸福か？」の講演をもとに、18 世紀中国における公共性の問題と、日中儒学の比較を通じて東アジアの啓蒙の諸相を明らかにした。

２．研究の目的
本研究は 18 世紀を「公共知」の世紀として捉え、『百科全書』に典型的に見られるような知の総合化の東西比較を行い、近代以降の知の混迷の時代に示唆を与える処方箋を見出すことを目的としている。

３．研究の方法
代表者・分担者ともに自らの領域を超えて東西比較を行うために、毎年、研究会を組織し、知見を共有することに努めた。ことに日韓中３国の 18 世紀学会のメンバーが相集って研究会を運営し、それぞれの持ち味を活かしながら、東アジア、ひいては東西の枠を超える方向での研究に新生面を拓くことを心がけた。
一例として、従来、ともすれば国別に行われてきた思想・文化研究が、朝鮮通信使・燕行使などの外交を通じて連携が生じ、新たな局面が生まれる様相を、それらをつなぐ諸資料を総覧することによって、東アジアにも国境を超えた「文芸共和国」の存在が確認された。

４．研究成果
平成 18 年度、「ヴォルテールと孔子」（孟華・北京大学）と「聖人は幸福か？」（渡辺浩・東京大学）の研究会を通じて、西欧中心の「啓蒙」概念を東アジアの視点から捉え直し、19 年度にはレカ・ティオミス（パリ第 10 大学）を招いて東京と京都で『百科全書』研究の現在を共通理解とすることに努めた。これと並行して、国際 18 世紀学会（於モンペリエ）で日韓共催のラウンドテーブルを行うために、予備セッションを名古屋で行い、理解を深めた。20 年度は、中国・韓国から研究者を迎え、東西の百科全書的な知識をめぐって研究集会を開いた。北京外交研究所准教授の Yun Long 氏は「中国の百科全書的知識とフランス人宣教師」について、韓国・漢陽大学校教授の鄭珉氏が「18 世紀朝鮮知識人と百科全書的知識」について、丁茶山を中心に論じ、それに研究分担者の鷲見洋一氏が「知識の長い道：西ヨーロッパから日本まで」と題して規模雄大な見通しを立て、逸見龍生氏の「＜検討＞概念の生成と構造ー哲学的地下文書『宗教の検討』をめぐって」と題して細部にわたる発表を行って、個別に東アジアと啓蒙問題の解明を深化させてきた。
さらに高橋は、20 年 10 月にパリとライデンで、それぞれ国際研究集会に出席し、日欧比較および西洋文化摂取の講演と意見交換を行った。11 月にはソウル漢陽大学校韓国学研究所で東アジア文芸共和国の骨子を報告した。21 年２月、パリ・ライデン両報告をまとめて、国際日本文化研究センターの「18 世紀日本の文化状況と国際環境」研究会で報告した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１９件）
①高橋博巳「元重挙―特立独行の人―」『金城学院大学論集（人文科学編）』6-2、査読なし、2010、p.1-31,
②高橋博巳「江戸が受容した西洋―江漢の阿蘭茶臼と山陽の蘭巵―」『金城学院大学論集』人文科学編 6-1、査読なし、75-95、2009 年、
③川島慶子「ラヴワジエ夫人研究の変遷に見るジェンダー問題」『化学史研究』第 36 巻第 4 号、査読あり、2009、
④高橋博巳「成大中の肖像―正使書記から中隠へ―」『金城学院大学論集（人文科学編）』5-1、査読なし、40-50、2008 年
⑤鷲見洋一「巨大量、収集、分類 ― 世界図絵の中のフランス『百科全書』」『アリーナ』中部大学国際人間学研究所 第 5 号、査読なし、17-34、2008 年、
⑥鷲見洋一「『全体知』への夢 ［フランス『百科全書』とその周辺］」『別冊環⑮』（藤原書店）査読なし、214-219、2008 年
⑦寺田元一 Muriel Brot et Sante A. Viselli éd.：Lectures de Jacques Proust, première éd., Montpellier, Presses universitaires de la Méditerrannée, 査読なし、2008,272p.（"La sphygmologie montpelliéraine: le rôle oublié du pouls dans l'émergence du vitalisme montpelliérain", p. 63-91）
⑧寺田元一 "The Animal Economy as Object and Program in Montpellier Vitalism", Charles WOLFE と共著、*Science in Context*, 21(4), 査読なし、Cambridge University Press, 2008, 537-579
⑨高橋博巳「詩人南山―失われた環」『文学』5-6、査読なし、171-180、2007 年、
⑩高橋博巳「通信使・北学派・蒹葭堂」『朝鮮通信使研究』４、査読なし、103-144、2007 年、
⑪鷲見洋一「啓蒙時代初期のパリ ― 文学、絵画、音楽、演劇、都市計画など ―」、『日仏文化』、第 74 号、査読なし、12-25、2007

年
⑫川島慶子“Two Popular Accounts of Émilie du Châtelet and the Gender Problem″, *Historia Scientiarum*, vol.17-2,査読あり、121-133、2007年
⑬寺田元一Hôken, Taichi et émergence de la《 société 》chez Yamagata Bantô, H. Nakagawa et J. Schlobach (éd.), *L'Image de l'autre vue d'Asie et d'Europe*, 査読なし、Honoré Champion/、Paris, 2007, 325p., pp.147-160
⑭鷲見洋一《L'*Encyclopédie* située à mi-chemin entre l'est et l'ouest, l'avant et l'après》, in *Recherches sur Diderot et sur l'Encyclopédie*, n° 40-41, 査読なし、2006, pp.31-53.
⑮寺田元一La sphygmologie chinoise et la mise au point d'une nouvelle conception vitaliste de l'économie animale par des vitalistes montpelliérains, *Archives Internationales d'Histoire des Sciences*, vol. 56, no. 156-157, 査読あり、pp. 149-163, juin-décembre 2006.
⑯長尾伸一「『スミス以前の経済学』への科学史的アプローチ」、『経済学・経済思想の諸パラダイムの比較検討－現代経済学のあるべきパラダイムを求めて―』サンライズ出版、査読なし、5-20、2006年
⑰長尾伸一“The Discovery of Modern Market Society and its Political and Social Implication: An Aspect of Scottish Political and Social Thought in the 18th Century”, *The Economic Science*, Vol.54 No.3 (2006),査読なし、 pp.1-24.
⑱逸見達生「ディドロ執筆項目「『霊魂』補遺」―『百科全書』本文校訂の試み」2006年、『藝文研究』第91号（慶應義塾大学文学部紀要)、査読なし、pp.45-66
⑲寺田元一「山片蟠桃における「封建」、「大知」ならびに社会の創発」『十八世紀における他者のイメージ-アジアの側から、そしてヨーロッパの側から-』河合文化教育研究所、査読なし、153-168、2006年

〔学会発表〕(計１４件)
①高橋博巳「東アジアの半月弧：浪華・ソウル・北京・ハノイ」、新潟大学19世紀学会「ヨーロッパ・半島・日本：新しい文化学の構築を目指して」シンポジウム、2010年3月1日
②長尾伸一Thomas Reid on the plurality of worlds: its Scottish contexts and beyond、国際研究集会「知の方法、ないし原理」2009年6月19日、東京大学
③渡辺浩Luxury, Commerce and Virtue: Political and Intellectual Debates in Tokugawa Japan、Luxury and Civilization 国際シンポジウム、2009年9月5日、名古屋大学
④高橋博巳「東アジア文芸共和国は可能か」漢陽大学校韓国学研究所シンポジウム、2008年11月28日、漢陽大学校（ソウル）
⑤高橋博巳At the break of the modern age: The VOC and Japanese Intellectuals, International Conference The Dutch Trading Companies as Knowledge Networks, 24 Oct. 2008, Museum Volkenkunde, Leiden
⑥高橋博巳《L'Occident》et《l'idéal antique》chez les confucianistes de l'époque d'Edo, Le Regard Eloigne (The View from Afar), 16-19世紀間の日欧比較コロック, フランス極東学院・グルベンキアン財団主催、2008年10月16-17日、Institut National d'Histoire de l'Art, Paris.
⑦堀田誠三Chair for the presentation of the book: Koen Stapelbroek, Love, Self-Deceit, and Money: Commerce and Morality in the Early Neapolitan Enlightenment, 2007, Seminario Internazionale di Studi, 25 Sep. 2008, Dipartimento di Storia, Università di Torino.
⑧逸見達生″Quelques réflexions sur l'article ″Âme″ XIIème Congrès de la Société Internationale d'Étude du XVIIIème siècle (SIEDS), ″Sur l'importance des métadonnés de l'Encyclopédie″、2007年7月10日、モンペリエ大学、
⑨高橋博巳「文人の世紀―北学派から蒹葭堂へ―」2007年11月2日、京都大学人文科学研究所「啓蒙の運命」研究会
⑩高橋博巳A Republic of Letters in East Asia, 2007年7月10日、国際18世紀学会ラウンドテーブル、モンペリエ
⑪逸見達生平成19年度春季日本フランス語フランス文学会全国大会・１８世紀研究会「日本における『百科全書』パリ版デジタルアーカイブ共同研究の現状」2007年5月19日・明治大学（コーディネーター、基調報告）
⑫高橋博巳「別れの朝」、朝鮮通信使国際シンポジウム、2007年5月4日、釜山広域市庁舎
⑬高橋博巳「文人たちの宴『以特酔人、勝於以酒』―1763-4年の通信使行」、2006年10月19日、国際研究集会「前近代における東アジア三国の文化交流と表象―朝鮮通信使と燕行使を中心に―」国際日本文化研究センター
⑭逸見達生「ポスト百科全書主義　財のデザイン・分類と配分の過去と現在」第5回DMC国際シンポジウム（融合：文化創造社会に向けて）慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構主催、2006年8月28日

〔図書〕（計７件）
①渡辺浩『日本政治思想史』東大出版会、2010年、p.476,
②川島慶子『マリー・キュリーの挑戦』トランスビュー、2010年、p.210,
③鷲見洋一『「百科全書」と世界図会』岩波書店、2009年、p.298,
④高橋博巳『東アジアの文芸共和国』新典社、2009年、p.127,
⑤高橋博巳『玉堂琴士集』（編集解説）太平書屋、2008年、p.155,
⑥安藤隆穂『フランス自由主義の成立』名大出版会、2007年、p.343＋87（注）,
⑦長尾伸一 *Politics and Society in Scottish Thought*, (Imprint Academic, London, 2007), 204p

〔その他〕
ホームページ等
長尾伸一
http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/htm/staff/nagao/nagao.html
川島慶子
http://www.ne.jp/asahi/kaeru/kawashima/j_home.html

６．研究組織
(1)研究代表者
高橋　博巳（TAKAHASHI　HIROMI）
金城学院大学・文学部・教授
研究者番号：70109833

(2)研究分担者
鷲見　洋一（SUMI　YOICHI）
中部大学・人文学部・教授
研究者番号：20051675

渡辺　浩（WATANABE HIROSHI）
東京大学・法学部・教授
研究者番号：10009821

安藤　隆穂（ANDO　TAKAHO）
名古屋大学・経済学研究科・教授
研究者番号：00126830

長尾　伸一（NAGAO SHINICHI）
名古屋大学・経済学研究科・教授
研究者番号：30207980

寺田　元一（TERADA MOTOICHI）
名古屋市立大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：90188681

堀田　誠三（HOTTA SEIZO）
福山市立女子短期大学・生活学科・教授
研究者番号：40144109

川島　慶子（KAWASHIMA KEIKO）
名古屋工業大学・工学研究科・准教授
研究者番号：20262941

逸見達生（HENMI　TATSUO）
新潟大学・人文社会教育科学系・准教授
研究者番号：60251782